

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 31 日現在

機関番号：37104  
 研究種目：基盤研究（C）  
 研究期間：2010～2012  
 課題番号：22530147  
 研究課題名（和文） アジアのなかのスペイン市民戦争

研究課題名（英文） The Spanish Civil War in Asia

## 研究代表者

石川 捷治（ISHIKAWA SHOJI）  
 久留米大学・法学部・教授  
 研究者番号：30047740

## 研究成果の概要（和文）：

スペイン市民戦争には、約 55 カ国から 4 万人の義勇兵、約 1 万人の後方要員が「自由と理想」のために参戦した。アジア地域からも例外ではない。本研究は、中国人、朝鮮人、フィリピン人、インド人、ヴェトナム人らのスペイン市民戦争への参戦やかかわりを明らかにしたものである。

## 研究成果の概要（英文）：

The Spanish Civil War resulted in not only the historical turning point into WWII, but also the key incident which connotes the solution for the present world. The world's citizens rose up for liberty and a hopeful future under international solidarity. The relationship between the Spanish Civil War and Asian countries, which has not been well recognized, is explored in this study.

## 交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010 年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2011 年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2012 年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：政治学・政治学

キーワード：スペイン市民戦争 国際的内戦 統一戦線 国際的義勇兵 アジア 国境を越えたボランティア 市民 ジャック白井

## 1. 研究開始当初の背景

スペイン市民戦争については、この 70 数年間、きわめて多くの文献・資料が刊行・発表されている。この戦争が世界史に重大な影響を与えたことから考えれば当然といえよう。しかし、これまでの研究では、アジアとスペイン市民戦争との関連については、ほとんど言及されてこなかった。国内だけでなく、国外の研究状況でも同様である。

フランコ反乱軍側が勝利し、共和国側の敗北に終わったスペイン市民戦争は、日中戦争、第二次世界大戦（アジア・太平洋戦争）の帰趨やアジア各国の独立達成、さらにそれ以後の「冷戦」やアジア情勢にも少なからぬ影響を及ぼした。中国の抗日統一戦線や戦中・戦後のアジア民族解放闘争の展開と勝利は、スペイン市民戦争の教訓なくしてはありえなかったはずである。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、スペイン市民戦争とアジアとの関連を明らかにすることにある。

約75年前に勃発したスペイン市民戦争は、1930年代の歴史的分岐点になったというだけでなく、世界とアジアの今日を解くカギを秘めた出来事であった。反ファシズムと共和国防衛において世界的規模での市民の主体性が発揮されたという点で、普通の市民が人間の尊厳と自由を守るために立ち上がる「大義」がそこには存在した。

とくに本研究では、これまで関係が薄いと一般には考えられていた、スペイン市民戦争と日本をはじめアジア諸地域の人々との関連を調査し、スペイン市民戦争におけるアジアからの視線やその意義を明らかにしようとするものである。

まず「スペイン市民戦争」という呼称についてである。一般には「スペイン戦争」「スペイン内戦」「スペイン内乱」「スペイン革命」などの呼称が用いられている。本研究が敢えて「スペイン市民戦争」という呼称を用いたのは、戦争の主体と性格を重視したからである。つまり、人間が人間の尊厳を守るために闘った、その市民的主体性を表現したいと考えたからである。

## 3. 研究の方法

本研究では、下記の(1)を重点化し、他の諸点を分業し、最終年度に統合的研究を行う。

### (1) アジア各国調査

日本、韓国、中国、インド、フィリピン、ヴェトナム、インドネシアなどにおけるスペイン市民戦争との関係について、現地調査および文献調査を行う。現地においては、スペイン市民戦争に関係した組織・人物の探求・分析にとどまらず、現地における博物館・資料館などの歴史展示も調査し、統一戦線結成についての展示を並行して調査する。

### (2) 日本外交のスペイン認識

「アジアのなかのスペイン市民戦争」研究の一環としてとりくまれる付随的研究として日本外交の対フランコ政権政策およびスペイン認識を分析する。内外で発表された研究論文をふまえ、日本の外交文書の分析によって、「西班牙内乱」認識や、当時の複雑かつ重層的な国際政治における両国の基本的な関係へアプローチする。

### (3) アジア各国における研究動向

台湾・韓国調査の結果、少なからずスペイン市民戦争の影響を受けたと考えられる「反戦同盟」、「朝鮮義勇隊」、「台湾義勇隊」に関

する日本、韓国、中国、台湾の研究動向を調査し、それらをふまえて1930年代後半(日中戦争以降)の東アジアにおける「反帝統一戦線」の俯瞰的考察をおこなう。

### (4) International Brigade Memorial Archive

International Brigade Memorial Archive (マイクロフィッシュ版) の読み込み・分析を通じて、「アジアのなかのスペイン市民戦争」にかかわるアジア人の足跡を追う。

### (5) 日本国内における当時の状況

日本国内の動向として、1930年代後半にスペインを訪問した作家 野上弥生子をはじめとする人物の足跡を調査する。また当時、大学や論壇などで、スペイン市民戦争への関心とどのような議論が行われていたのかを探る。

### (6) 内外の近年の研究動向

スペイン市民戦争に関する近年の国内外での研究動向を整理する。たとえば、下記の文献を対象とする。

島田顕『ソ連・コミンテルンとスペイン内戦—モスクワを中心にしたソ連とコミンテルンのスペイン内戦介入政策の全体像』れんが書房新社、2011年。

Werner Abel (Hrsg.), *Die Kommunistische Internationale und der Spanische Buergerkrieg*, Berlin, 2010.

Theodor Bergmann, *Internationalisten an den antifaschistischen Fronten : Spanien-China-Vietnam*, Hamburg, 2009.

主要な研究会および調査は次の通りである。

平成22年度

・平成22年3月3日～7日 中国重慶市現地調査

・平成22年6月26日～29日 中国重慶市現地調査(重慶市図書館)

・平成22年11月26日～28日 沖縄現地調査(沖縄国際大学法学部)

・平成22年2月17日～18日 科研研究会(西鉄ソラリア、九州大学法学部)

・平成22年3月15日～19日 ヴェトナム現地調査(ハノイ大学)

平成23年度

・平成23年9月16日 久留米大学法学会 石川捷治(報告)「スペインの統一戦線—1930年代—」(久留米大学)

・平成23年10月29日～30日 科研研究会(広島修道大学)

・平成23年11月18日 科研研究会(福岡アクロス)

・平成23年11月20日 科研研究会(久留米大学法学部)

平成 24 年度

- ・平成 24 年 7 月 7 日～14 日 スペイン現地調査 (IPSA 参加を含む)
- ・スペイン・グラナダ大学、ポーランド Adam Mickiewicz 大学の研究者らと研究テーマをめぐる討論会
- ・バルセロナ市歴史博物館などで調査
- ・平成 25 年 3 月 9 日～13 日 台湾現地調査 資料補足調査 (台湾国家図書館)
- ・平成 25 年 3 月 14 日～15 日 研究懇談会 (鹿児島大学)

#### 4. 研究成果

(1) アジア各国におけるスペイン市民戦争  
アジア諸国におけるスペイン市民戦争へのかかわりについて要約すれば、まず、アジアにおいてスペイン共和国への支持が比較的多く表明され、スペイン市民戦争との直接的関係が顕著であったのは、中国、フィリピン、インドなどであった、またインドネシア、ヴェトナムではスペイン市民戦争への関与は間接的だが、同時代としてスペイン市民戦争から「横からの入力」を受けている。以下、アジア各国におけるスペイン市民戦争へのかかわりについて要約する。

##### ①中国

中国では、1936 年の西安事件を契機とする抗日民族統一戦線への趨勢のなかで、毛沢東、周恩来、王明、西安事件の立役者であった楊虎城などがスペイン人民戦線への共感と支持を表明しており、スペインにおけるファシズム対反ファシズムの構図が、中国での抗日民族統一戦線の形成に、ある程度の影響を及ぼしているとみられる。

中国人義勇兵については、まず謝唯進である。ドイツ留学経験もあり、中国共産党員でエリートであった謝唯進は、パリのスペイン支援組織の執行委員会委員となったのち、1937 年にスペインへ渡り、スペイン市民戦争へ参加していた。負傷による 1938 年の帰国後、彼は八路軍に参加し、日中戦争、国共内戦を戦ったが、中ソ対立が決定的となる 1963 年には反革命分子と断罪され失脚している。欧州の政治文化やスペイン市民戦争を知る謝の失脚は注目に値する。

スペインへ渡り、義勇兵となった中国人はエリートばかりではない。生活苦のためフランスのルノーの工場で労働していた張瑞書、米国留学したものの大恐慌のあおりで失業していた張起、国民党から狙われフランス行きの貨物船へ乗り込んだ陳阿根などが存在した。

##### ②フィリピン

フィリピンでスペイン共和国のシンボル

的存在となったのは、マニラ総領事 (兼極東派遣全権公使) のアントニオ・ハエン (Antonio Jaen) であった。彼は 1937 年の着任以来、共和国政府の正統性を訴えつづけただけでなく、盧溝橋事件 (1937 年) 以来、日本の侵略を受けていた中国民衆との連帯を模索した。ハエンの活動のなかから、11 名がスペイン市民戦争へ参加している。彼らは「ホセ・リサル大隊」を組織し戦った。その後、フィリピンは日本の侵略の危機に直面した際、1938 年に共産党系の労働組合と社会党系の労働組合は「統一的労働運動 (CLM)」を立ち上げ、労働戦線の統一は社共両政党を合同へと推し進めた。新組織は「フィリピン共産党」とよばれ、広範な反日・反ファシズム統一戦線の樹立を訴えた。新共産党に参加したもののなかには、サントス (Pedro Abad Santos) やタルク (Luis Taruc) がいた。タルクは、アジア・太平洋戦争中「抗日人民軍 (フクバラハップ Hukbalahap)」を指揮して日本軍・傀儡政府軍と戦った。以上のようなフィリピンの統一戦線党の結成と言動には、中国の抗日民族統一戦線をフィルターとしたスペイン市民戦争の影響が滲み出るといえるだろう。

##### ③インド

インド独立運動の指導者ネルー (Jawaharlal Nehru) は、スペイン市民戦争へ大きな関心を寄せ、ミュンヘン宥和前夜には、スペインを訪問している。彼は共和国関係者を激励したのみならず、「自由」のための戦いにおいて、スペイン、中国、インドの闘争の連携の強化を主張した。

インドからスペイン市民戦争への参加者は、医師がめだっている。メンハンラル・アタル (Menhanlal Atal) は、1937 年にスペインに入党し、国際義勇軍関連の医療施設において医師として働いた。カン (A.A. Khan) は 1936 年英国でスペイン市民戦争への参加を志願し、同年に第一回イギリス医療隊とともに入党し、医師として働いた。マヌエル・ロッカ・ピント (Manuel Rocha Pinto) はポルトガルで勉学して放射線科の学位を取得し、スペインでは国際義勇軍関連の医療施設で医師として働いた。

##### ④インドネシア、ヴェトナム

東南アジアの各共産党は、1935 年のコミンテルン第七回大会における「反ファシズム統一戦線」の決議に従い、その翌年以降、統一戦線政策をとった。ヴェトナムでは 1936 年に、共産党のイニシアティブのもとに反帝国主義人民戦線 (のちに「インドシナ民主統一戦線」へと改名) が組織された。インドネシアでは、1937 年に共産主義者と革命的民族主義者を中心としてインドネシア人民運動 (ゲ

リンド)が結成された。1940年には、日本の侵略をうけたヴェトナムでは、共産党の指導下で、反ファシヨ・抗日民族統一戦線としてのヴェトナム独立同盟(ヴェトミン)が結成された。以上の組織化や戦いは、スペインの戦いの経験から間接的な示唆を受けたものであった。

## (2) 戦時日本外交のスペイン認識

戦時中の日本外交におけるスペインの戦略的重要性は高いものとはいえない。米英仏独伊ソ中といった大國間政治のなかで、スペインは二次的なアクターにすぎなかった。したがって、管見の限り、日本外交文書中には、対「西班牙内乱」(スペイン市民戦争)やフランコ政権への認識が大きく扱われているわけではない。ただし、対中国政策のなかでスペイン・ファクターの作用は認められる。また、そのようなスペイン・ファクターの前提となっている日本外務省の分析官による「西班牙内乱」の認識も重要である。以上のことから、本セクションでは、次の点に重点をおいて考察をすすめた。

### ① 対中国政策におけるスペイン・ファクター

スペインの動向は、日本の第二次国共合作認識や、対重慶政策において、ソ連のかかわり方を把握するという点で重要であった。ことに独ソ不可侵条約締結以前にあっては、スペインにおける反ファシズム統一戦線の形成とソ連の援助という国際的形勢は、共産党が同居する重慶へ対峙する日本にとって重要だからである。

### ② 日本外務省・陸軍の分析官におけるスペイン「内乱」認識

上述のような関心から、日本外務省及び陸軍省の分析官は、「西班牙内乱」を分析している。次の資料に着目して考察を進めた。

- ・西浦進(陸軍歩兵大尉)「スペイン内乱を視る」1937年7月。
- ・重光葵「重光大使ノ欧州政局報告」1937年8月。
- ・矢野真(スペイン駐劔特命全權公使)「スペイン内戦について」1938年5月。
- ・猪俣イタリア駐在事務官「『スペイン』國視察報告書」1940年4月。

### (3) 反戦同盟、朝鮮義勇隊、台湾義勇隊に関する日本、韓国、中国、台湾の研究動向の研究

1930年代後半(日中戦争以降)の東アジアにおける「反帝統一戦線」に関する研究状況を概観するために、反戦同盟、朝鮮義勇隊、台湾義勇隊に関する日本、韓国、中国、台湾の研究動向を整理する作業をすすめた。

主要な文献は下記のとおりである。

- ・井上学「解題」鹿地亘資料調査刊行会編『日本人反戦同盟資料 第9巻』不二出版、1994年。
- ・「朝鮮義勇隊の成立と活動」(『朝鮮民族運動史研究』第4号、1987年所収)をはじめとする鹿嶋節子氏の研究
- ・염인호『조선의용대・조선의용군』(朝鮮義勇隊・朝鮮義勇軍) 독립기념관한국독립운동사연구소、2009年。
- ・井上桂子『鹿地亘的反戦思想与反戦活動』(鹿地亘の反戦思想と反戦活動)吉林大学出版社、2008年。
- ・王政文『台灣義勇隊-台灣抗日團體在大陸的活動(1937-1945)』(台灣義勇隊-台灣抗日團體の大陸における活動 1937-1945) 台灣書房、2011年。

今後の課題

①スペイン市民戦争は、ファシズムの進撃をくいとめられるのか、それとも第二次世界大戦への道を突き進むのかという岐路に位置した。国際政治におけるヨーロッパ各国の政治的リーダーたちの思惑にもとづく、複雑で冷厳な外交的駆け引きとは別に、世界の「市民」がスペインに注目し、直接・間接にスペインの反ファシズム闘争を支援し、闘いに参加した。スペインに成立した統一戦線は、スペインの国内的要因と国際的要因との独特の混合体であり、多面性を持っていた。このような国境を貫く要因が、スペインの統一戦線の大衆運動としてのダイナミズムにいかなる影響を与えたのか、より深く探る必要がある。

②スペイン市民戦争の反ファシズム統一戦線で「市民」が追い求めた「自由」は、現代では、かえりみられなくなった種類の「自由」であろう。この失われた「自由」が、今日の世界でいかなる作用があり、どのように特徴づけることができるか、さらなる研究をおこなう必要がある。

③スペイン市民戦争に参加したジャック白井以外の日本人の発掘が必要である。沖縄出身の人物やその他の人についての、うわさや情報、文学的表現のなかの「幻影」としては存在するが、確証はつかめなかった。今後とも粘り強くフォローするより方法はないであろう。大日本帝国の周辺にからスペイン市民戦争に参加したアジアの抵抗者たちについても同様である。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計7件)

2013(発行決定)

1 藤村一郎、「吉野作造—人格主義とアジア」、原田敬一・安田常雄・趙景達・村田雄二郎編『講座 東アジアの知識人』3巻所収、査読有、有志舎、2013年11月発行予定。

2012

2 石川捷治、「九州における『戦争と平和』」、『久留米大学比較文化年報』21輯、査読無、pp75-91、2012年。

3 藤村一郎、「吉野作造—平和への布石—」、『長崎平和研究』、査読無、34号、pp191-196、2012年。

2011

4 石川捷治、「戦間期ヨーロッパ統一戦線運動再考」、『鹿児島大学「法学論集」』、45巻2号、査読無、pp19-44、2011年。

5 藤村一郎、「吉野作造と満蒙特殊權益—門戸開放と中国「保全」—」、杉田米行編『1920年代の日本と国際関係—混沌を越えて「新しい秩序」へ—』所収、査読有、pp123-166、春風社、2011年。

6 川田稔編・出原政雄・藤村一郎(分担執筆)、「両大戦間期日本における戦争と平和」、『日本思想史学』、査読有、43号、pp22-29、2011年。

2010

7 石川捷治「統一戦線史論覚書—戦間期『危機の時代』と今日』『法政研究』76巻4号、査読無、pp237-264、2010年。

〔学会発表〕(計5件)

1 藤村一郎、「吉野作造の軍部批判と大陸政策論」、日本国際政治学会2012年大会、2012年10月19日、名古屋国際会議場。

2 ISHIKAWA Shoji, Anti-Nuclear Movement in Japan after March 11, 2011, ISPA(世界政治学会)2012 World Congress of Political Science, July 2012, Madrid Spain.

3 山田良介、「戦後史の中における植民地体験—朝鮮半島からの『引揚者』を事例として—」、東アジア学会第21回大会、2011年10月、北九州市立大学。

4 藤村一郎、「吉野作造—平和への布石—」、日本平和学会九州沖縄地区平和研究集会、2011年11月20日、久留米大学。

5 川田稔編・出原政雄・藤村一郎、「両大戦間期日本における戦争と平和」、日本思想史学会2010年大会、2010年10月17日、岡山大学。

〔図書〕(計1件)

1 藤村一郎、『吉野作造の国際政治論—もうひとつの大陸政策』、有志舎、全296頁、2012年。

〔その他〕

NHK取材班編『日本人は何を考えてきたのか 大正編:「一等国」日本の岐路』、NHK出版、104-105頁、2012年(藤村一郎のインタビュー、テキスト収録)。

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

石川 捷治 (ISHIKAWA SHOJI)  
久留米大学・法学部・教授  
研究者番号: 30047740

### (2) 研究分担者

藤村 一郎 (FUJIMURA ICHIRO)  
久留米大学・比較文化研究所・研究員  
研究者番号: 00441717

山田 良介 (YAMADA RYOSUKE)  
九州大学・法学研究院・協力研究員  
研究者番号: 40380547

### (3) 研究協力者

中村 尚樹 (NAKAMURA HISAKI)  
フリージャーナリスト、法政大学非常勤講師、大妻女子短期大学非常勤講師

金 哲 (KIM CHOL)  
中国・長江師範学院・教授